

令和7年度「調査研究フォーラム」の開催について

令和7年3月21日 全国健康保険協会
第135回運営委員会資料

協会けんぽ加入者の健康増進・医療費適正化等の取組やその取組の基礎となる調査研究で得られた知見を支部間で共有し、事業の企画・改善に繋げ、広く協会関係者・加入者等に発信するため、下記のとおり調査研究フォーラムを開催を開催する。

【名 称】『第11回 協会けんぽ調査研究フォーラム』

【日 時】令和7年5月27日（火）10時～17時

【会 場】一橋講堂（当日ライブ配信と後日アーカイブ配信を実施予定）

【内 容】

1. 外部有識者を活用した委託研究（第Ⅳ・Ⅲ期）『中間報告』

（1）慶應義塾大学 伊藤 裕 特任教授（第Ⅳ期_1年目）

『協会けんぽ加入者の高額医療費集団に特徴的な疾患群に対する効率的医療費適正化を目指した多元統括的研究』

（2）東北医科薬科大学 目時 弘仁 教授（第Ⅳ期_1年目）

『高血圧治療開始前から治療期までの血圧コントロール不良要因とその地域差の解明』

（3）産業医科大学 藤本 賢治 助教（第Ⅳ期_1年目）

『データ分析の結果を活用する新たな保健事業に向けた調査分析及びモデル開発に関する研究』

（4）東京大学 井出 博生 特任准教授（第Ⅲ期_2年目）

『協会けんぽにおける今後の保健事業等の基盤整備を目指した調査分析』

（5）秋田大学 野村 恭子 教授（第Ⅲ期_2年目）

『就労女性の性に関連する健康と労働生産性の実証研究』

(6) 上智大学 中村 さやか 教授 (第Ⅲ期_2年目)

『患者・供給者の行動変容と保険者機能強化による医療サービスの効率化』

(7) 京都大学 福間 真悟 特定教授 (第Ⅲ期_2年目)

『保健事業による健康アウトカムを改善するための行動インサイト：因果探索の応用』

2. 支部による分析・取組事例報告

<口演>

(1) 京都支部 『健康宣言による健康リスク等の改善効果分析』

(2) 佐賀支部 『若年メタボ該当者へ健診前に送るナッジ文書の効果』

(3) 鹿児島支部 『鹿児島支部加入者の喫煙状況10年間のコホート分析』

<ポスター発表>

北海道支部、宮城支部、秋田支部、福井支部、和歌山支部、広島支部、沖縄支部

3. 外部有識者を活用した委託研究 (第Ⅱ期) 『最終報告と総合討論』

(1) 摂南大学 小川 俊夫 教授

『生活習慣病の疾病別医療費の地域差に関する研究』

(2) 東北大学 藤井 進 准教授

『支部単位保険料率の背景にある医療費の地域差の要因に関する研究』

(3) 岩手医科大学 丹野 高三 教授

『機械学習を用いた生活習慣病の治療行動予測モデルの構築』

(4) 東京大学 飯塚 敏晃 教授

『予防医療が本人と家族に及ぼす効果に関する研究』

(5) 京都大学 井上 浩輔 特定准教授

『メンタル疾患・生活習慣病の発症リスク削減、医療費適正化に向けた機械学習予測モデルの構築と因果推論』